



2025年化学災害警防計画及び図面実務セミナーに参加して



1 はじめに

このたび、台湾政府内政部消防署及び環境部化学物質管理署主催の「2025年化学災害警防計画及び図面実務セミナー」に横浜市消防局及び危険物保安技術協会の職員各2人が招聘され、2025年2月17日(月)～2月21日(金)の間、同セミナーの講師として講演するとともに、内政部消防訓練センター及び工業技術研究院緊急対応情報センター(Emergency Response Information Center, ERIC)の視察を行いました。

2 化学災害警防計画及び図面実務セミナー【18日(火)及び19日(水)】

2月18日(火)	
セッション1 危険物保安技術協会について (設立の背景とその役割の変遷)	危険物保安技術協会 理事 鶴巻 郁夫
セッション2 消防法改正後における警防情報の開示請求権の強化	内政部消防署警防救急組 組長 李明憲
セッション3 危険物施設におけるDX推進について	危険物保安技術協会 企画部長 杉山 章
セッション4 消防技術説明者制度	横浜市消防局予防部保安課危険物保安係 コンビナート対策主任 須藤 弘大
セッション5 化学クラウドを活用した図面の応用	環境部化学物質管理署 技正 林桂如
2月19日(水)	
セッション6 危険物施設における警防計画について	横浜市消防局警防部警防課 計画係長 佐藤 匡史
セッション7 危険物施設における現場活動について	

台湾の消防制度は、我が国の制度と非常に類似する点は多くあるものの、行政による消防対象物への警防情報の開示については、法律根拠をもとに、強い行政権力を持って対応していくなど、現場での消防職員の負傷・殉職事故に対する取り組みを非常に強く感じたところでした。



3 関係箇所視察【20日(木)】

(1) 台湾内政部消防訓練センター

消防訓練センターは、アジア最大規模の面積を誇り、その面積は109ヘクタール、東京ドーム23個分にもなる広大な敷地を有しており、航空機火災、列車火災、トンネル火災など、様々な実大規模の訓練を実施することができる訓練施設で、日本の消防大学校と都道府県や政令指定都市の消防学校の機能を併せ持つ施設です。私たちが視察に訪れた時は、本年1月に採用された初任科約800人の教育が行われていました。

また、本年6月にオープンが予定されている環境部化学物質管理署と内政部消防署が連携して化学災害に対応する訓練を行う施設についても、プラント施設の模擬火災を披露してくれました。



(2) 工業技術研究院緊急対応情報センター

台湾環境保護署 (TEPA) の有害化学物質事故対応に対応するために2002年に設立され、2014年には緊急対応チームを結成し、2021年には有害物質を取り扱う専門緊急対応者の訓練機関にも指定されています。

主なサービスとしては、緊急対応相談、緊急対応者訓練、カウンセリングサービス、環境サンプリング検出、事故シミュレーションなどで、台湾国内で発生した化学災害には、出場している消防部隊に対してリアルタイムでの危険情報等の提供を行っています。

訓練支援業務としては、各種訓練用資機材を積載した車両で有害物質の除去訓練等の出張訓練や、VRを使用した化学物質に対する対応訓練として、仮想空間内で様々な災害を発生させ、その対処を消防隊員個々の対処訓練のみならず、出動部隊を指揮する指揮官や災害指令センター等の遠隔地とのコミュニケーション訓練など様々な職位、任務に対応した訓練を行うことができる施設を見学させていただきました。



VRゴーグルを着用した仮想空間での活動訓練

4 おわりに

化学災害警防計画というテーマで、横浜市消防局と危険物保安技術協会に対してご招待いただき、横浜市消防局は、「殉職事故ゼロ」を目指し、警防計画の重要性、危険物保安技術協会は、DXを活用した警防計画という新たな取り組みを紹介してきましたが、台湾からも学ぶべきところが多くあったと感じた次第です。今後も機会を設けて台湾の災害対応への取組を知ることは大変意義のあることだと思います。

最後に、内政部消防署の李明憲警防救急組長や警防救急組の職員の皆様、通訳の頼淑琦様ほか関係者の皆様におかれましては、貴重な機会を頂きましたことに心から感謝申し上げます。